

# 第1章 調査研究の概要

## 1 調査研究の経緯

高等学校学習指導要領が平成 30（2018）年 3 月に改訂され、移行期間を経て令和 4（2022）年度から年次進行で施行される。その中で、予測困難な時代を生き抜く力をもった子どもを育むため、社会に開かれた教育課程のもと、社会と連携・協働した教育活動を充実させることが求められている。

昨年度は、高校生や高等学校の地域課題への意識や取組状況等を把握するため「地域課題に関する意識・行動調査」「地域課題の解決に関する取組状況等調査」（令和 2（2020）年 3 月）を実施し、地域・社会への課題認識や、その課題解決に向けた活動・学習の現状について分析を行った。

その結果、高校生は、地域活動に関してメンバー募集を行っている地域団体や実際に活動ができる場所の情報を求めていることが分かった<sup>\*1</sup>。また、高等学校では、地域活動資金・機材や生徒に対する地域活動の場の提供に支援を求めていることが分かった<sup>\*2</sup>。

そこで、今年度の調査研究では、高校生の地域活動への参加を促す効果的な方策を探るため、県内の高等学校における地域課題への積極的な取組のうち、地域とつながり多様な活動をしている事例や各校の専門性を生かした事例、また学校教育以外で高校生が活動できる環境をつくっている事例に着目し、ヒアリング調査を行うこととした。

\* 1 表 I 「必要な支援・サポートの比較〔高校生〕」

問 どのような手助けがあると、さらに活動に取り組みやすくなると思いますか。	
メンバー募集を行っている地域団体の情報提供	37.4%
実際に地域活動をできる場所の紹介	29.5%
同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会	25.0%
地域活動を行っている団体の紹介	24.1%
地域活動の資金や必要な物品の支援	22.5%

\* 2 表 J 「必要な支援・サポートの比較〔学校〕」

問 どのようなサポートがあると、地域課題に関する活動が円滑に進むと思いますか。	
地域活動資金・機材の支援	32.5%
生徒に対する地域活動に関する学びの場の提供	30.1%
教職員に対しての地域活動に関する意識の向上に資する学びの場の提供	26.5%
行政等機関との連携	26.5%
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	25.3%

## 2 調査研究の目的

- (1) 事例から高校生が地域活動に取り組みやすい環境の整備に資する方策を探り、県内高等学校、特別支援学校、社会福祉協議会、市町教委生涯学習課、公民館等での高校生の地域活動を促す取組の充実を図る。
- (2) 各学校が地域活動を取り入れる際に、有効と考えられる各事例に共通する方策を探る。
- (3) 高等学校等と地域の多様な機関とが連携した事例を収集し、学校・地域の双方から高校生の地域活動を進めるための参考とする。

## 3 調査研究の方法等

### (1) 調査対象

学校教育の中で地域とつながり多様な活動をしている取組や各校の専門性を生かした取組 5 事例、学校教育以外で高校生が活躍できる環境をつくる地域の取組 2 事例について調査を行った。

#### 調査対象 1 (学校)

No	ヒアリング調査先	
1	鹿沼高等学校	地域連携教員
2	日光明峰高等学校	地域活動担当教員
3	小山北桜高等学校	地域活動担当教員
4	鹿沼東高等学校	地域連携教員
5	栃木工業高等学校	地域連携教員

#### 調査対象 2 (地域団体)

6	とちぎ高校生蔵部 (栃木市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習課)	市社会教育担当職員
7	YAITA ALL DIRECTIONS (YAD) (矢板市経済建設部 商工観光課)	市事業担当職員

### (2) 調査方法

#### ア 調査内容

地域活動の状況や地域活動を進める上での成果・課題、地域活動を効果的に展開するための方策等について事前に調査票を送付し、その記載に基づいてヒアリング調査を行った。

#### イ 調査期間

令和 2 (2020) 年 8 ~ 9 月